ニセコの冬に響く

ヴァイオリンの音色



ニキータ・ボリソ=グレブスキー Nikita Boriso=Glebsky ヴァイオリン



上杉 春雄 Uesugi Haruo ピアノ

1730年代にイタリア・ベネッィアで製作された ヴァイオリンーマッテオ ゴブリラー Matteo Goffrillerー の音色がニセコの冬に響き渡ります

2019年

12月10日(火) 開場 18:30 開演 19:00

ニセコ町・有島記念館

演奏曲

バッハ=グノー作曲 アヴェ・マリア

ブラームス作曲 ハンガリー舞曲第一番

チャイコフスキー作曲ワルツ・スケルツォ

ほか

料金 常設展観覧料のみで入場できます

一般500円・高校生100円 中学生以下・65歳以上のニセコ町民は無料 年間パスポート(1年間有効):一般800円・高校生200円

詳細は有島記念館ホームページをご覧いただくか、電話(0136-44-3245)にてお問い合わせください 主催 ニセコ町・有島記念館(北海道虻田郡ニセコ町字有島57) Niseko winter music festival 実行委員会 後援 在札幌ロシア連邦総領事館

Niseko winter music festival 実行委員会では2020年冬、ニセコエリアで音楽フェスティバル開催実現を検討しています

profile





ニキータ・ボリソ=グレブスキー Nikita Boriso=Glebsky ヴァイオリン

1985年、ロシア・ヴォルゴドンスク生まれ。6歳でヴァイオリンを始め、10歳でオーケストラデビューを果たす。14歳でチャイコフスキー記念モスクワ音楽院で学び始める。チャイコフスキー国際コンクール・ヴァイオリン部門2位、シベリウス国際ヴァイオリンコンクール、フリッツ・クライスラー国際コンクールでも優勝。欧州の主要の室内楽団、交響楽団との共演をはじめ、ザルツブルク音楽祭などの欧州主要音楽祭、日本では今年夏に東京のラ・フィル・ド・ジョネに招聘され、活躍を始めた。バッハ、ヴィヴァルディからシチェドリンやペンデレツキーまで幅広いレパートリーを持つ。ボリス・ベレゾフスキー、ニコラ・ルガンスキー、ウラジミール・レーピン。イタリアのストラディヴァリウス協会よりヴィルトオーソ賞、フィンランドのシベリウス協会より名誉メダルを授与、2019年にロシア政府より最も高位にある芸術家として表彰された。今回は「NHK 交響楽団定期演奏会」のため来日。

Nikita Boriso-Glebsky started violin at six and made his orchestra debut at ten. At fourteen he started his study in the Moscow State Tchaikovsky Conservatory. The winner of the Jean Sibelius, the Fritz Kreisler, David Oistrakh, Monte Carlo Violin Masters Competitions and Silver medalist of the XIII Tchaikovsky Competition. He has performed with numerous top orchestras in Europe, as well as performing in music festival among Salzburg Festivals, Rheingau Musik Festival, Beethovenfest Bonn, La Folle Journée festival in Nantes and Tokyo. Boris Berezovsky, Vadim Repin, Alexander Knyazev and Nikolai Lugansky are among Nikita's stage partners. His Title includes Honored Artist of the Russian Federation, among others.

上杉 春雄 Uesugi Haruo ピアノ

1967年、北海道生まれ。5歳でピアノを始め、11歳で交響楽団と弾いていた。国内外でコンクール多数入賞。20歳で東芝 EMI より CD デビュー。 サントリーホールをはじめ国内外でのリサイタルのほか、札幌交響楽団、東京 フィルハーモニー交響楽団、読売日本交響楽団などの主要オーケストラや諏 訪内晶子、藤原真理、A.Skocic(元ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団首席 チェリスト)、森麻季、波多野睦美、中丸三千繪、G.Sima(元ウィーン国立歌 劇場専属歌手)ら国内外の音楽家と共演。2011年と2018年にリリースした CD アルバムは、ともに「レコード芸術」誌上特選盤となり、後者はレコード・アカデミー賞にもノミネートされた。 またヴィオラ奏者の川本嘉子との演奏会は「コンサート・ベストテン2018」(『音楽の友』誌)に挙げられた。 北海道大学医学部卒、東京大学大学院医学研究科終了、スウェーデン・ウブサラ大学留学。医学博士。日本神経学会専門医。札幌山の手病院医院長、王子総合病院神経内科主任科長、札幌医科大学臨床教授を経て、現在、愛全病院勤務。

Haruo Uesugi began the piano at five. At eleven, he was playing with the orchestra. The winner of numerous domestic competitions, and the medal recipient of the at Maria Canals International Competition. Contrary to his sensational recitals and tour, he once paused to appear in public in order to focus on academics to enter the medical school. Years later, His solo recitals series started again, and he performed with major orchestras in Japan. He also plays for patients as NHK broadcast the documentary of his outstanding activity as the both professional. His stage partners are Akiko Suwanai, Maki Mori, Martin Katz, Adalbert Skocic, among others. As a neurologist, He studied at Hokkaido University, the University of Tokyo, and Uppsala University Hospital in Sweden. He is a former professor of Sapporo Medical University, now he serves patients in Aizenkai Hospital in Sapporo.